



2025年3月期 第2四半期 決算説明会

シスメックス株式会社
2024年11月6日

Together for a better
healthcare journey

Disclaimer

- ・本資料のうち、売上予想等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づき算出しており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化により、実際の業績等が予想数値と大きく異なる可能性があります。
- ・本資料に記載されている製品等の情報は、薬事認可取得の有無に関わらず宣伝広告および医学的アドバイスを目的としているものではありません。
- ・当社グループは、2017年3月期より国際会計基準（IFRS）を適用し、IFRSに準拠して開示しております。
- ・2022年3月期に、クラウド・コンピューティング契約におけるコンフィギュレーションまたはカスタマイゼーションのコストについて、サービスを受領したときにそのコストを費用として認識する方法に変更しています。

Index

1. エグゼクティブサマリー
2. 2025年3月期第2四半期 決算概要
3. 成長戦略の進捗と取り組み
4. 2025年3月期 業績予想

(補足資料)

- 2Q単四半期実績（対前年同期）
- 2025年3月期業績予想（事業・分野別・地域別売上高）
- 「シスメックスレポート2024」「シスメックスサステナビリティデータブック2024」を発行

1. エグゼクティブサマリー

2025年3月期 第2四半期実績

大幅な増収増益、売上高・営業利益・四半期利益ともに過去最高

前年同期比 売上高：114.0%、営業利益：131.6%、四半期利益：117.2%

- 試薬売上への伸長や新興国の成長機会の獲得により、全地域で増収を達成、ビジネスは好調に推移
- プロダクトミックスやコストダウンにより、原価率が改善し、営業利益は大幅増益

2025年3月期 業績予想

営業利益を30億円上方修正し、通期900億円へ変更 各施策は順調に進み、グローバルで持続的な成長を見込む

- 試薬売上高の高伸長による原価率の改善
- 欧米における血液凝固分野の拡販や市場成長が見込まれる新興国が引き続き貢献
- 社内デジタル化や新製品開発・基盤研究など、次のステージに向けた投資を継続

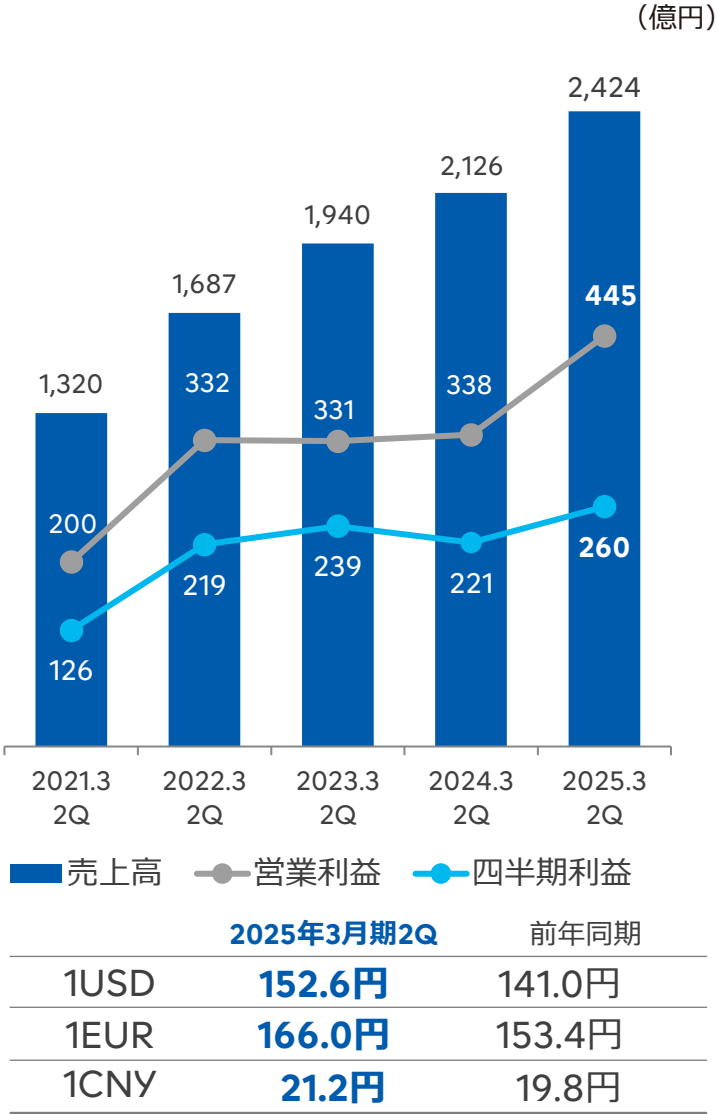
2. 2025年3月期第2四半期 決算概要

決算総括（対前年）



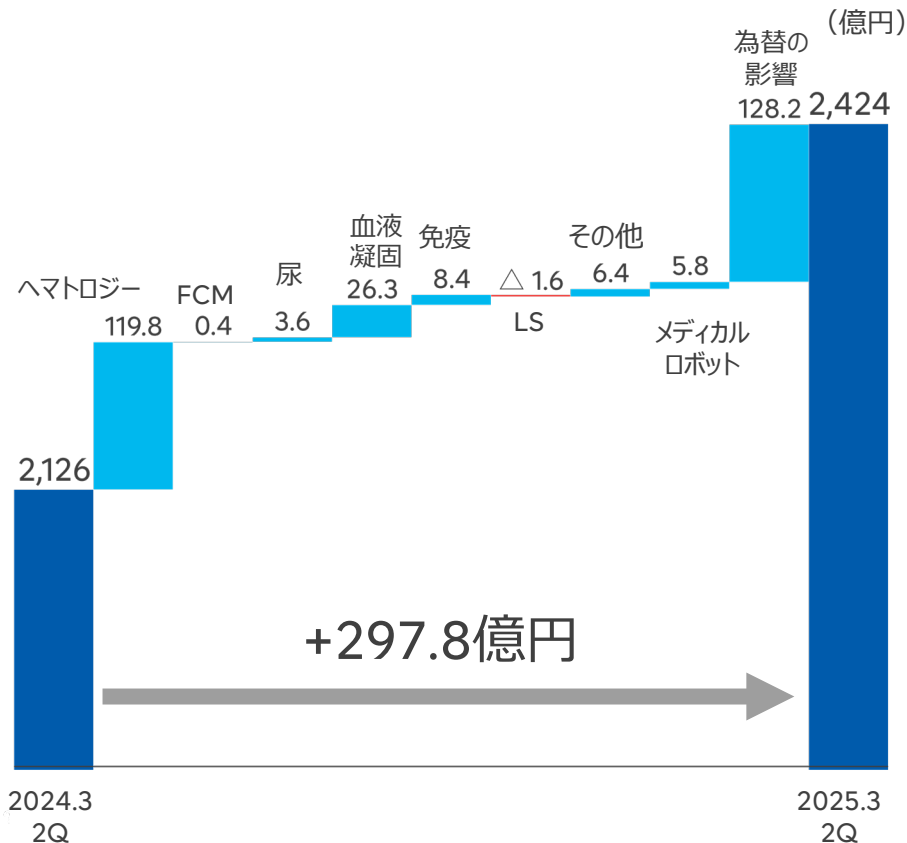
(億円)	2025年3月期2Q		前年同期		前年同期比
	実績	構成比	実績	構成比	
売上高	2,424.7	100%	2,126.9	100%	114.0%
売上原価	1,111.8	45.9%	1,016.8	47.8%	109.3%
販売費及び一般管理費	723.7	29.8%	625.9	29.4%	115.6%
研究開発費	152.3	6.3%	150.1	7.1%	101.5%
その他の営業損益	8.1	0.3%	4.1	0.2%	197.2%
営業利益	445.0	18.4%	338.2	15.9%	131.6%
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	260.0	10.7%	221.8	10.4%	117.2%

- **売上高** : XR™シリーズ・試薬売上が好調、新興国の伸長もあり、全地域で増収、過去最高を達成
- **営業利益** : 粗利益の増加などにより、対前年+106億円の大増益、過去最高を達成
 - ✓ **為替の影響** 売上高 +128.2億円、販管費 +35.7億円、営業利益 +56.4億円
 - ✓ **前年同期為替レート適用の場合** 売上高 108.0%、販管費109.9%、営業利益 114.9%
- **四半期利益** : +17.2%の増益 為替差損益：△40.3億円（前年同期比△53.8億円）



売上高の増減要因（事業別・分野別）

事業別・分野別売上高



COVID-19関連検査（ライフサイエンスと免疫に含む）

2025.3期2Q：10.7億円（国内のみ）
 参考 2024.3期2Q：12.9億円（国内のみ）

XRシリーズ効果や新興国の伸長によるヘマトロジー分野の大幅伸長に加え、血液凝固や免疫分野の伸長により、増収

(億円)	2025年3月期2Q		前年同期比	
	実績	構成比	円ベース	為替影響を除く
売上高	2,424.7	100.0%	114.0%	108.0%
ヘマトロジー	1,485.3	61.3%	115.9%	109.4%
FCM	15.8	0.7%	109.5%	103.0%
尿	195.5	8.1%	108.2%	102.0%
血液凝固	367.5	15.2%	113.4%	108.1%
免疫	117.2	4.8%	111.8%	108.1%
生化学	17.7	0.7%	114.5%	110.9%
ライフサイエンス	105.8	4.4%	103.6%	98.4%
その他	102.5	4.2%	111.2%	105.2%
ダイアグノスティクス事業	2,407.6	99.3%	113.8%	107.7%
メディカルロボット事業	17.1	0.7%	152.5%	152.5%

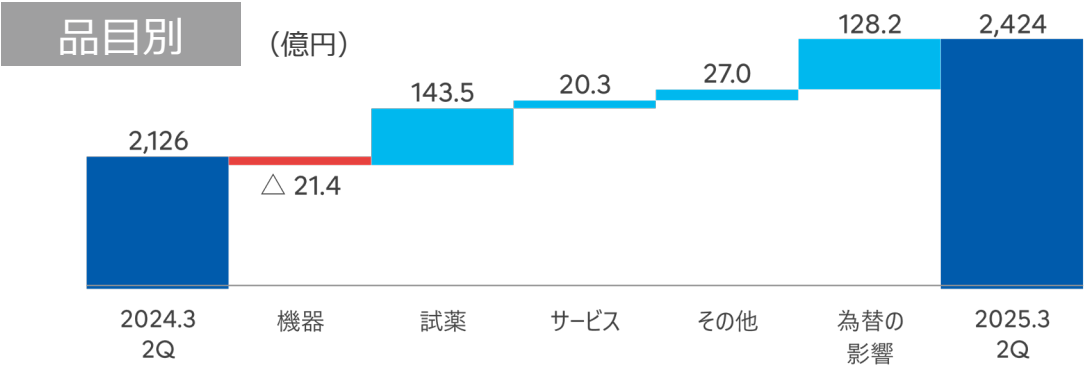
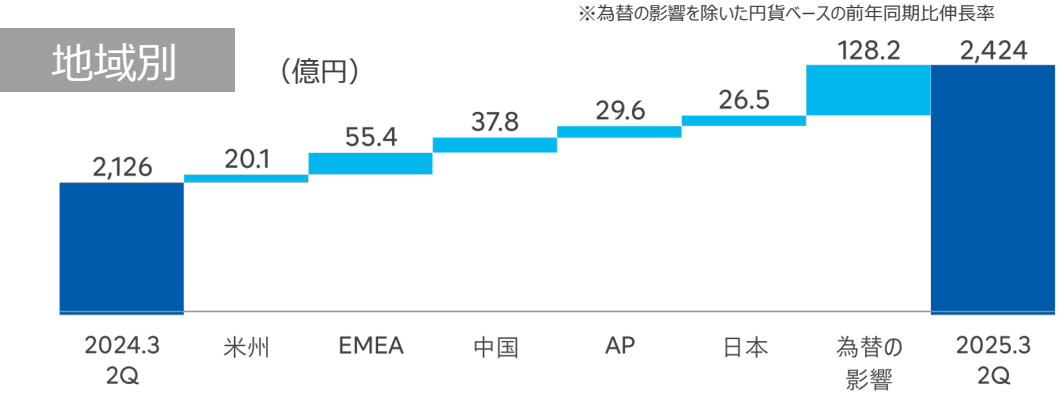
売上高の増減要因（地域別・品目別）

引き続き試薬売上が2桁伸長し、グループの成長をけん引

(億円)	2025年3月期2Q		前年同期比	
	実績	構成比	円ベース	現地通貨ベース
売上高	2,424.7	100.0%	114.0%	108.0%※
米州	637.4	26.3%	111.4%	103.1%
EMEA	691.2	28.5%	116.0%	107.2%
中国	545.4	22.5%	114.8%	108.0%
AP	247.4	10.2%	119.5%	114.3%※
日本	303.2	12.5%	109.6%	-
機器	475.9	19.6%	100.9%	95.4%※
試薬	1,507.0	62.2%	117.1%	111.2%※
サービス	333.4	13.8%	114.0%	107.0%※
その他	108.3	4.5%	141.8%	135.4%※

地域別の主な増減要因

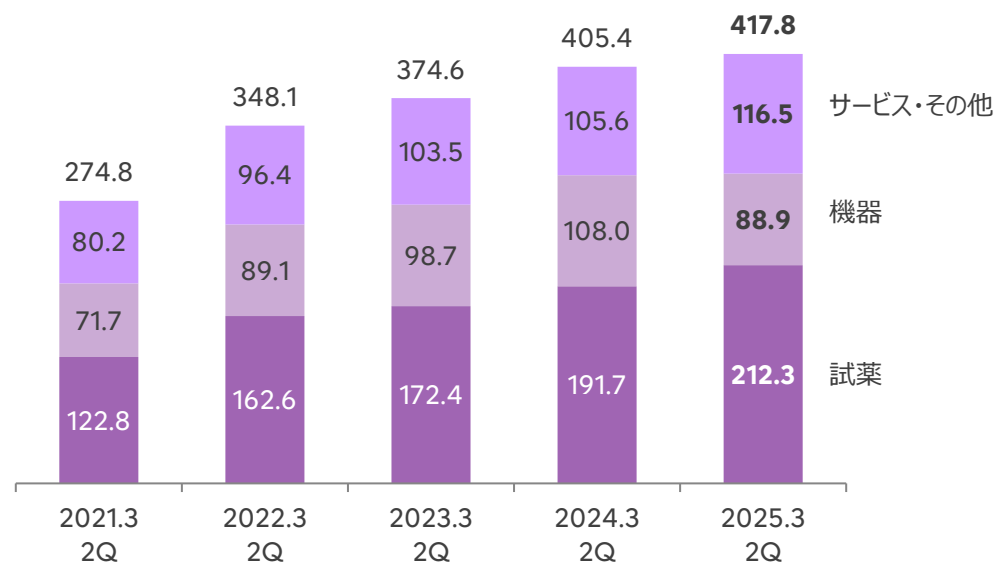
米州	- ヘマトロジー・尿分野の試薬が伸長し、増収を達成 - 血液凝固分野の試薬も、販売を開始
EMEA	直販効果や血液凝固OEM契約などにより、ヘマトロジー・血液凝固分野を中心に試薬が2桁伸長し、増収を達成
中国	ヘマトロジー分野の2桁伸長や血液凝固分野の伸長により、増収を達成
AP	インドをはじめ、各国の需要は強く好調に推移、全分野において2桁伸長、増収を達成
日本	ダイアグノスティクス事業はヘマトロジー・血液凝固・免疫分野が好調に推移。メディカルロボット事業も伸長し、増収を達成



米州（地域別）

(Million USD)	2025年3月期 2Q	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	417.8	405.4	103.1%	111.4%
機器	88.9	108.0	82.3%	89.0%
試薬	212.3	191.7	110.7%	119.7%
サービス・その他	116.5	105.6	110.3%	119.4%

売上高推移（Million USD）



機器売上は一時的に減収も、機器設置台数増加に伴う試薬の2桁伸長により、増収

● 機器

✓ 前年度、大型案件があった尿分野の反動に加え、北米においてヘマトロジー分野の一時的な納品タイミングの遅延により減収も、受注は引き続き好調。ブラジルも継続的に伸長のため下期の回復を見込む

● 試薬

✓ ヘマトロジーや尿分野の機器設置台数増加に伴い、2桁伸長を達成し、増収

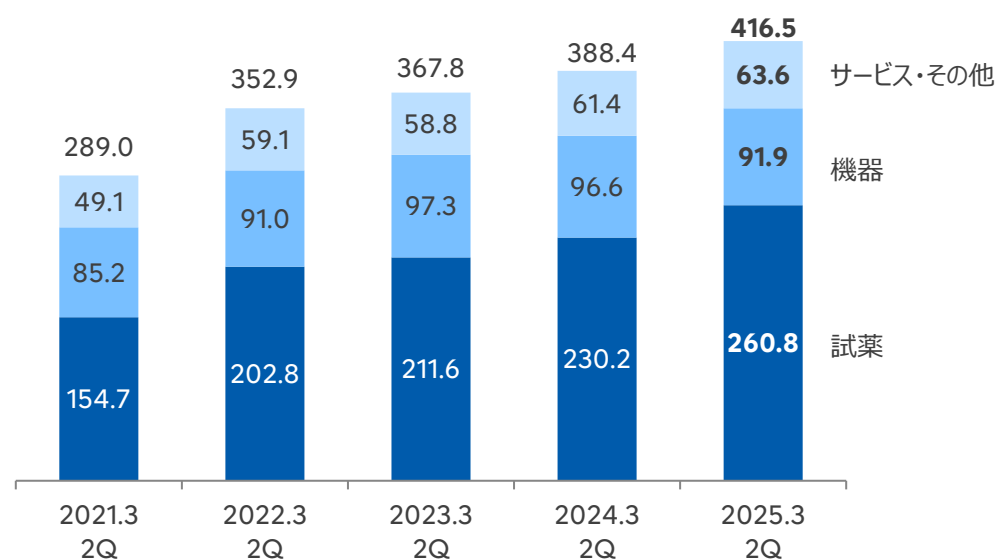
✓ 血液凝固分野も伸長、アミロイドβ検査試薬*も、堅調に推移

*2.2 Million USD

EMEA（地域別）

(Million EUR)	2025年3月期 2Q	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	416.5	388.4	107.2%	116.0%
機器	91.9	96.6	95.1%	102.5%
試薬	260.8	230.2	113.3%	122.7%
サービス・その他	63.6	61.4	103.6%	112.3%

売上高推移（Million EUR）



※過年度データを含め、ロシアの売上高を除いています

ヘマトロジー・尿・血液凝固分野の試薬が2桁伸長し、機器の減収を補い、増収

● 機器

✓ ヘマトロジー分野においてXRシリーズの販売が好調に推移した他、血液凝固分野もOEM契約の効果により伸長も、イタリアの直接販売への切替に伴い、尿分野が一時的に減少し、減収

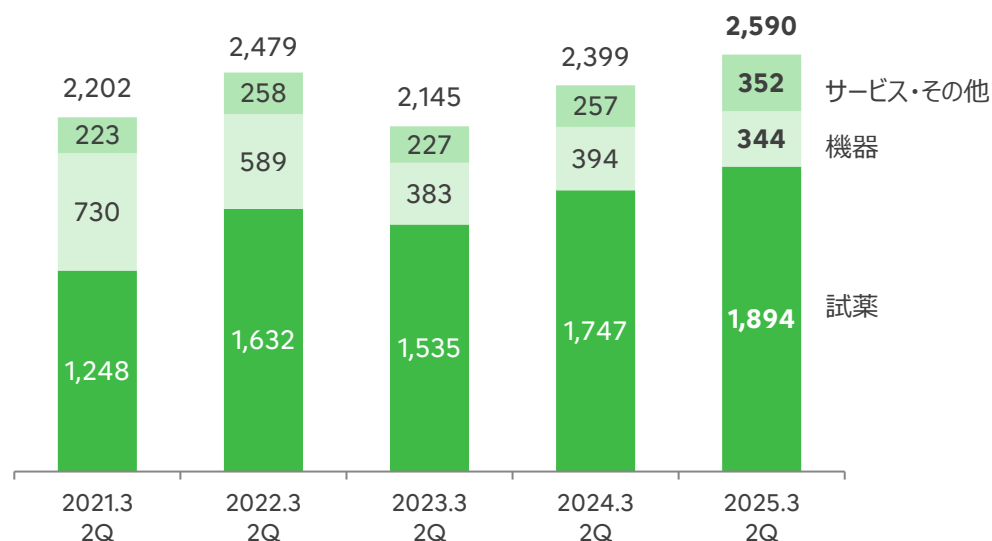
● 試薬

✓ ヘマトロジー分野において、直販化したサウジアラビアなどで好調に推移
 ✓ 機器設置台数増加によりスペインなどで尿分野が伸長した他、血液凝固分野のOEM契約による販売も好調に進展し、増収

中国（地域別）

(Million CNY)	2025年3月期 2Q	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	2,590.8	2,399.1	108.0%	114.8%
機器	344.6	394.3	87.4%	92.6%
試薬	1,894.0	1,747.0	108.4%	115.4%
サービス・その他	352.0	257.6	136.6%	144.7%

売上高推移（Million CNY）



機器は、1Qの影響などにより減収も、ヘマトロジー分野を中心に試薬が好調に推移し、増収

● 機器

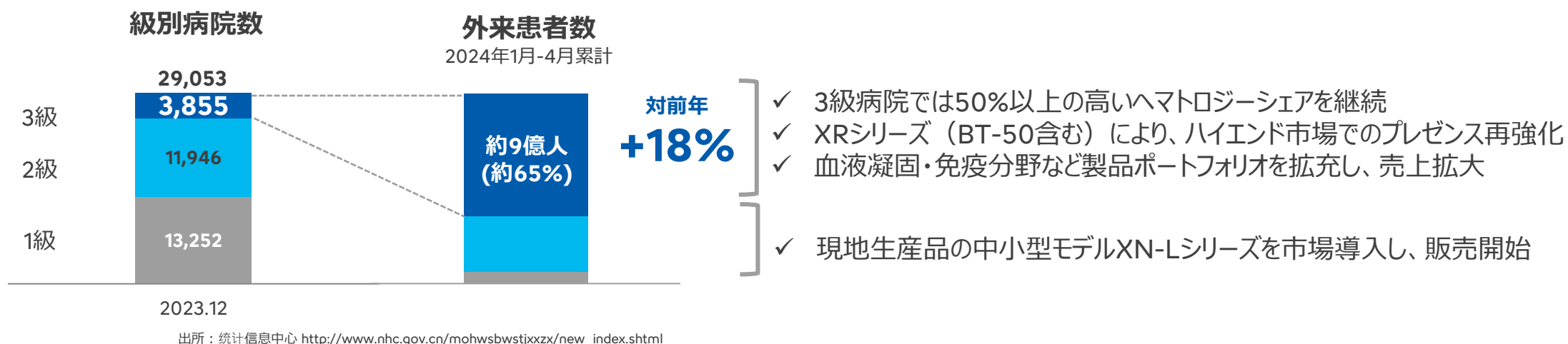
- ✓ 現地生産化したヘマトロジー分野ローエンドモデル（XNTM-Lシリーズ）および尿分野の販売台数が大幅増加
- ✓ 現地生産品を販売開始した血液凝固分野は、2Qから回復基調へ。さらに免疫分野のHISCLTM現地生産品認可取得も完了し、下期の回復を見込む

● 試薬

- ✓ 3級病院施設数や受診者の増加に加え、機器設置台数の増加もあり、ヘマトロジー分野や血液凝固分野が伸長し、増収

中国における検体検査市況

3級病院での高いシェアおよび外来患者数の増加を背景に、ヘマトロジー試薬売上は伸長
下位市場を対象に製品ポートフォリオを拡充



政府調達方針

- ✓ 機器の現地生産品目の拡大

集中購買

- ✓ 直接販売・サービスへのシフト
- ✓ 試薬の自社化による原価率低減

腐敗防止運動

- ✓ 市場環境の健全化は当社に有利

医療サービス価格の最適化 (DRG/DIP) *

- ✓ ヘマトロジー分野への影響は軽微
- ✓ 直販シフトやコストダウンで対応

*2010年代から導入。医療保険の支払い方式改革の推進の一つ

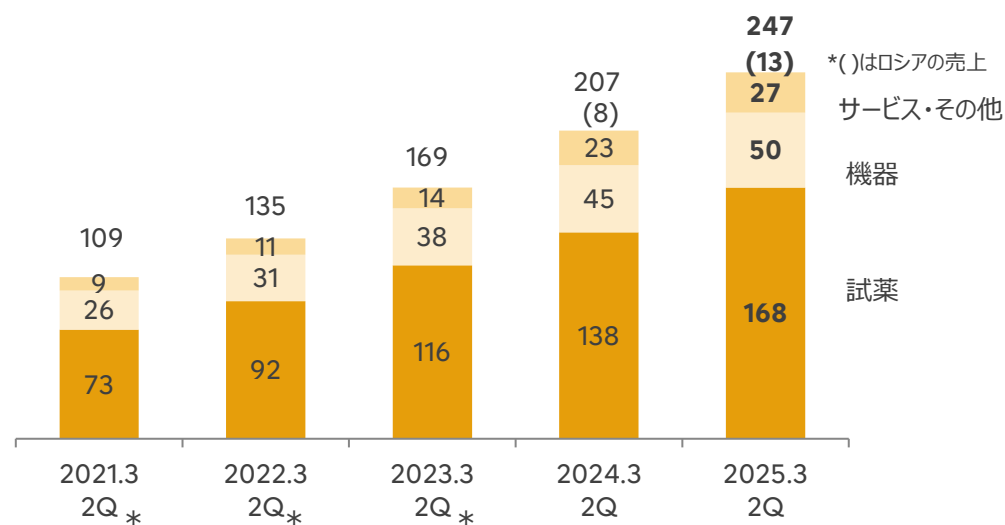
AP（地域別）

※ロシア売上高を含むデータへ変更

(億円)	2025年3月期 2Q	前年同期	前年同期比 円ベース
売上高	247.4	207.1	119.5% (114.3%)
機器	50.6	45.4	111.5%
試薬	168.8	138.6	121.8%
サービス・その他	27.9	23.0	121.5%

*()は為替の影響を除いた場合

売上高推移（億円）



* ロシア売上高を含まない

ロシア売上高を含む

医療インフラへの投資の継続もあり、機器、試薬、サービスにおいて、2桁伸長を達成、インドは対前年+35%の伸長

● 機器

- ✓ ヘマトロジー分野は、オーストラリアやタイを中心に伸長
- ✓ 尿分野で大型案件を獲得したインドの他、血液凝固分野はタイなどの東南アジアを中心に好調に推移

● 試薬

- ✓ ヘマトロジー分野は、機器設置台数の増加に伴い、インドやインドネシア、フィリピンなどで大幅伸長
- ✓ 免疫分野が機器設置台数の増加により好調に推移するなど、全分野で増収

日本（地域別）

（億円）	2025年3月期 2Q	前年同期	前年同期比 円ベース
売上高	303.2	276.6	109.6%
ダイアグノスティクス事業	286.1	265.4	107.8%
機器	57.2	40.6	140.9%
試薬	182.2	178.2	102.2%
サービス・その他	46.6	46.5	100.2%
メディカルロボット事業	17.1	11.2	152.5%

ダイアグノスティクス事業は、ヘマトロジー分野の機器の伸長に加え、血液凝固・免疫分野の試薬も伸長。メディカルロボット事業も好調に推移し、2桁増収

ダイアグノスティクス事業

● 機器

- ✓ ヘマトロジー分野において、XRシリーズの販売が好調に推移し、対前年+98%と大幅増収

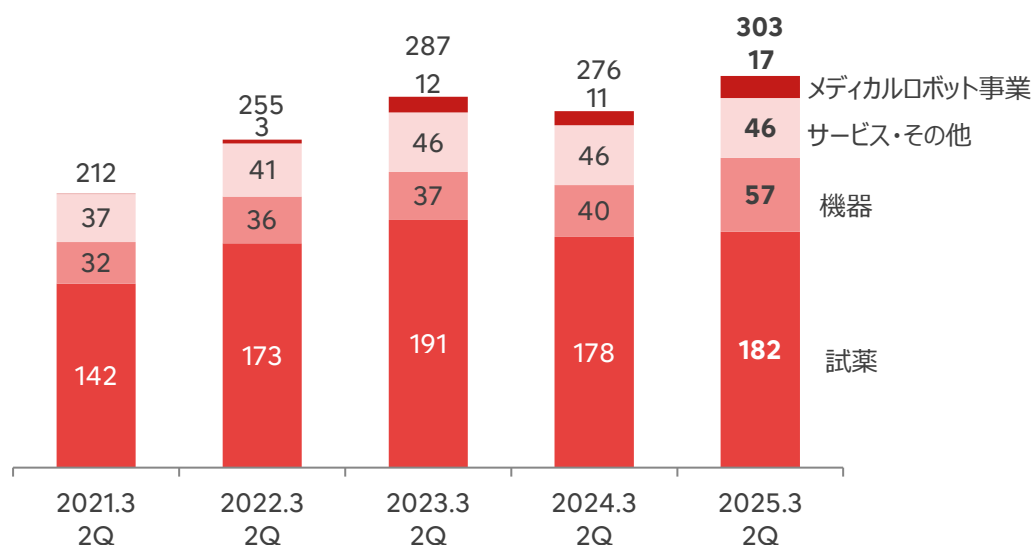
● 試薬

- ✓ 血液凝固分野で採用項目の拡大や、免疫分野での機器設置台数増加および採用項目の拡大により伸長し、増収

メディカルロボット事業

- ✓ 2Qで新たに3台導入、上半期導入台数：9台、累計台数：64台
- ✓ 導入台数および症例数の増加に伴い、サービス・消耗品（鉗子など）の売上が増加

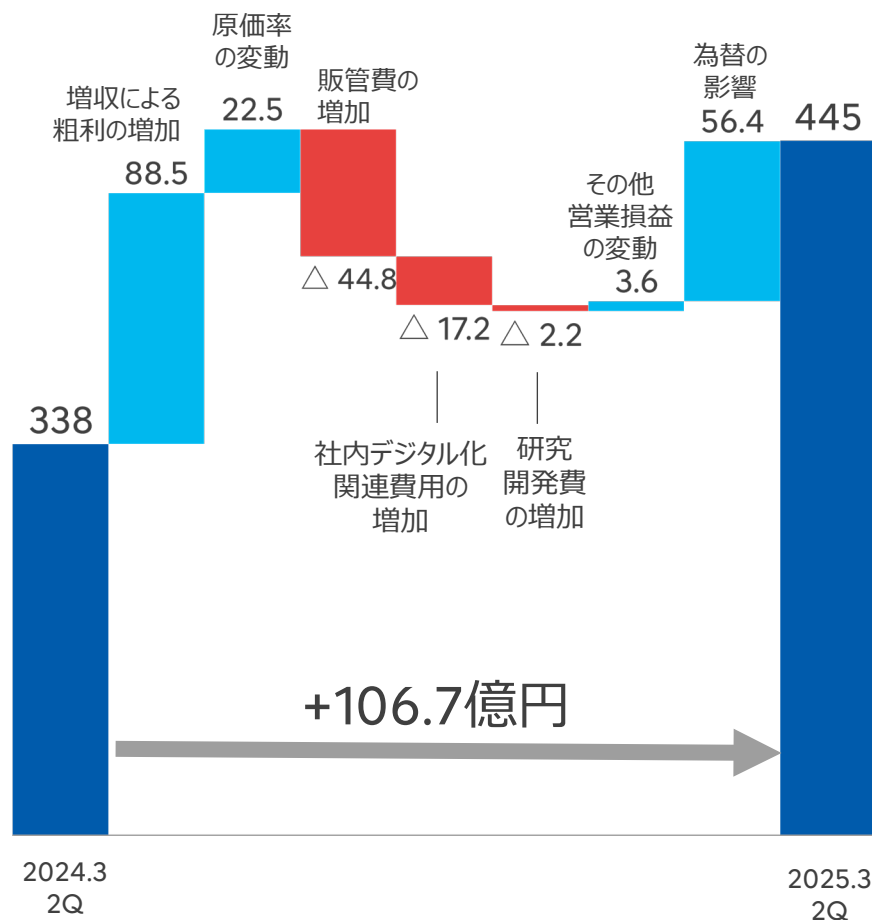
売上高推移（億円）



営業利益の増減要因

営業利益

(億円)



※下記数値・コメントは為替の影響を除く

- 増収による粗利の増加： + 88.5億円
- 原価率変動による影響： +22.5億円 (1.0pt改善)
 - ✓ 改善要因：プロダクトミックス 1.1pt、製品等の原価改善 0.4pt
 - ✓ 悪化要因：サービスコスト 0.2pt、輸送費 0.3pt
- 販売管理費の増加： △44.8億円
 - ✓ 労務費：規模拡大に伴う人員増や単価増などによる増加：約32億円
 - ✓ 経費：規模拡大や販促活動による増加：約9億円
- 社内デジタル化関連費用の増加： △17.2億円
- 研究開発費の増加： △2.2億円
 - ✓ 製品開発への継続投資および薬事関連費用による増加
- その他営業損益の変動： 3.6億円
- 為替の影響： + 56.4億円

連結財政状態計算書の増減要因

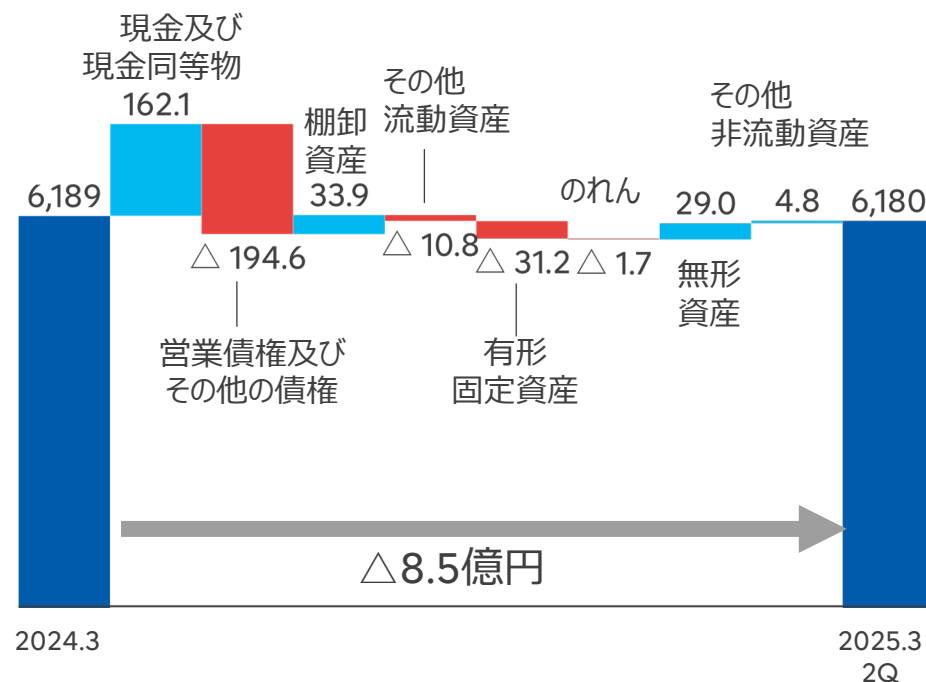
資産：現金及び現金同等物は増加も、売上債権の回収により営業債権及びその他の債権が減少

負債：デジタル化関連費用の支払などにより、流動負債が減少

資本：為替の影響により現地法人の純資産減少も、利益剰余金が増加

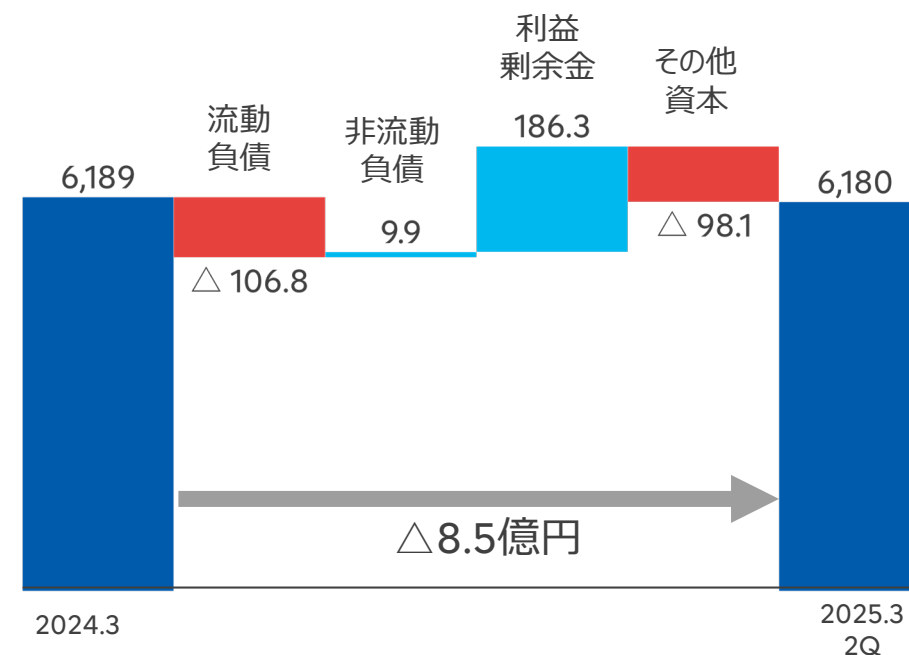
資産

流動資産 $\Delta 9.4$ (億円)
非流動資産 $+0.9$



負債・資本

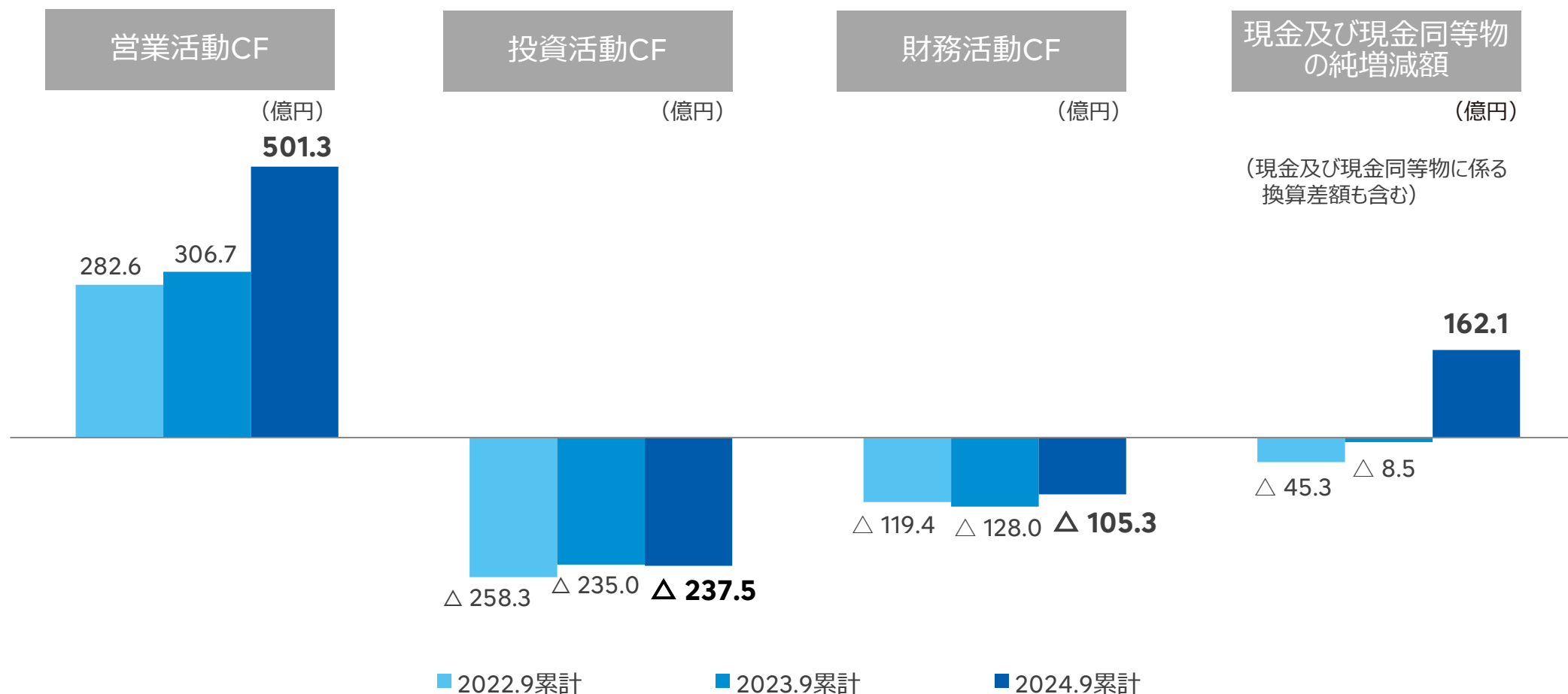
負債 $\Delta 96.8$ (億円)
資本 $+88.2$



キャッシュフローの推移

営業活動CF：税引前利益の増加や売上債権の回収により、増加

投資活動CF：社内デジタル化、新興国の拠点整備など前年同等の投資を実施



参考：ニュースリリース・トピックス（2024年7月～10月）



既存事業の強化

- インドでシスメックスグループ最大規模の生産拠点が竣工（AP）
- シスメックスとキアゲン社、遺伝子検査領域におけるグローバルアライアンス契約を締結
- アルツハイマー病治療薬である抗アミロイドβ抗体薬の副作用リスクを予測する検査試薬の製造販売承認を申請（日本）
- ヘパリン療法の副作用判定に寄与する検査試薬「HISCL™ HIT IgG試薬」を発売（日本）

新規事業の拡大

- 手術支援ロボット「hinotori™サージカルロボットシステム」マレーシアにおける販売承認を取得（AP）

サステナビリティ

- 「Science Based Targets initiative」の認定を取得
- GPIFが採用する全てのESG指数の構成銘柄に選定

3. 成長戦略の進捗と取り組み

～ 新興国戦略・既存事業の強化・新規事業の拡大 ～

市場成長をとらえ2桁伸長、高成長を継続 各地域で展示会など積極的な販促活動を展開

インド売上高推移 (億円)



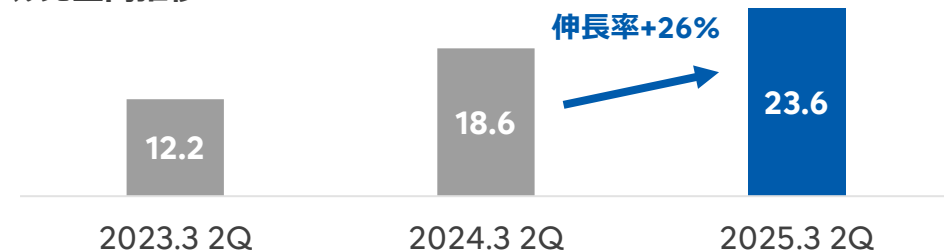
■ インド生産拠点：準備は順調に進む



■ インド学術セミナー：オンライン含めて数千人の参加



ブラジル売上高推移 (Million USD)



■ ブラジル、チリの展示会の様子



中東・トルコ・アフリカ(META)売上高推移 (Million EUR)



■ サウジアラビアの展示会の様子 (Blood-Science)



*META : Middle East, Turkey, Africa地域

既存事業の強化

ヘマトロジー分野

XRシリーズは各地域とも好調なスタート、次年度は米州での展開を予定

日本：XE・XNシリーズからの切替需要もあり、機器売上は対前年＋98%、圧倒的な存在感

AP：オーストラリア、タイ、マレーシア、インドネシアで販促開始、導入が進む

EMEA・中国：4月の販売開始後の導入は順調に推移、販売台数は四半期毎に増加



多項目自動血球分析装置
XRシリーズ

免疫分野

アルツハイマー病検査など地域特性に応じた取り組みを進めるとともに、富士レビオHD社との協業も推進

中国：計画よりも早く、HISCL（現地生産品）の認可を取得、今期中の出荷に向けて順調に推移

AP：ユニーク検査項目などの展開により、機器、試薬ともに2桁伸長を達成

日本：心筋梗塞や肝炎検査の採用項目拡大により、伸長。



全自動免疫測定装置
HISCL-5000

ライフサイエンス

QIAGEN社との遺伝子検査領域におけるグローバルアライアンスを推進中



既存事業の強化

血液凝固分野

米州・EMEAではOEM契約の効果もあり、新たなステージへ
日本、中国、APも各施策により、継続的な成長を期待

- EMEA : 新規獲得が順調に進み機器・試薬共に増収 対前年+20%伸長
- 米州 : 入札案件の獲得実績も出始めており、下期に向けて売上は伸長する見込み
- 中国 : 現地生産品（CN™シリーズ）の上市効果により、機器需要は回復
- 日本 : ヘマトロジー分野と血液凝固分野の融合装置への期待は高く展示会でも好感触
- AP : オーガニックな急成長を取り込み、さらに採用項目の拡大などにより、2桁伸長を継続

■ 日本の展示会の様子（Blood-Science）

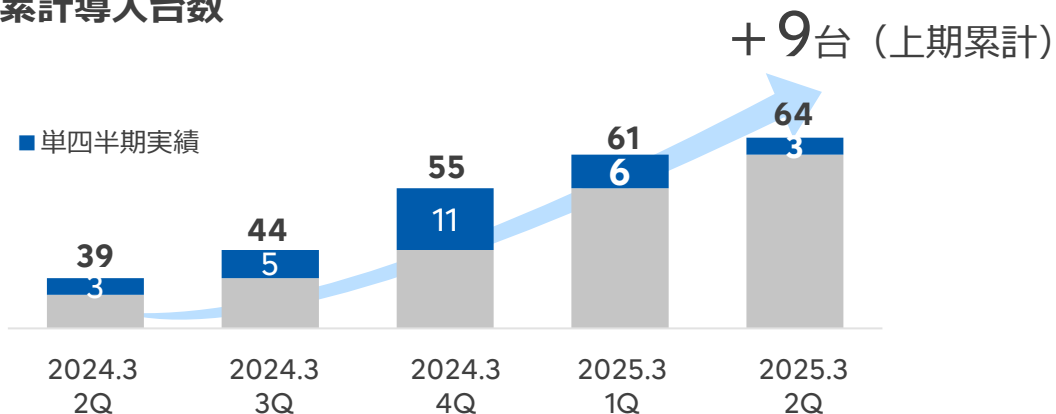
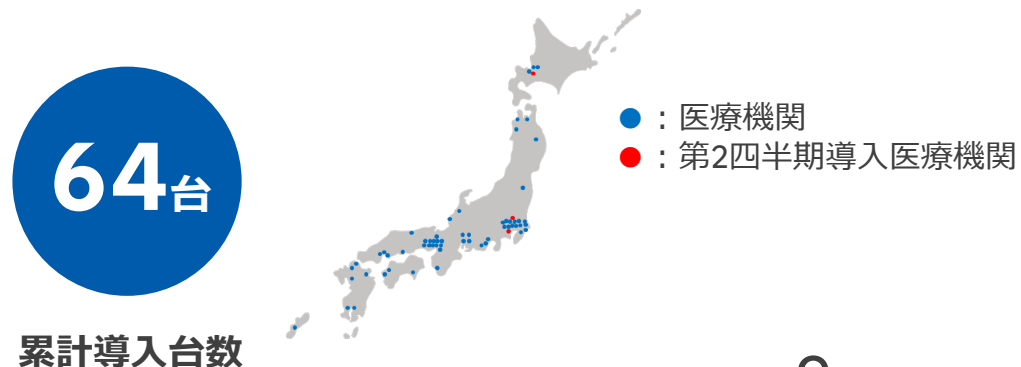


新規事業の拡大（メディカルロボット事業）

日本は引き続き好調に推移、海外市場への導入準備も着実に進捗

● hinotoriの導入状況

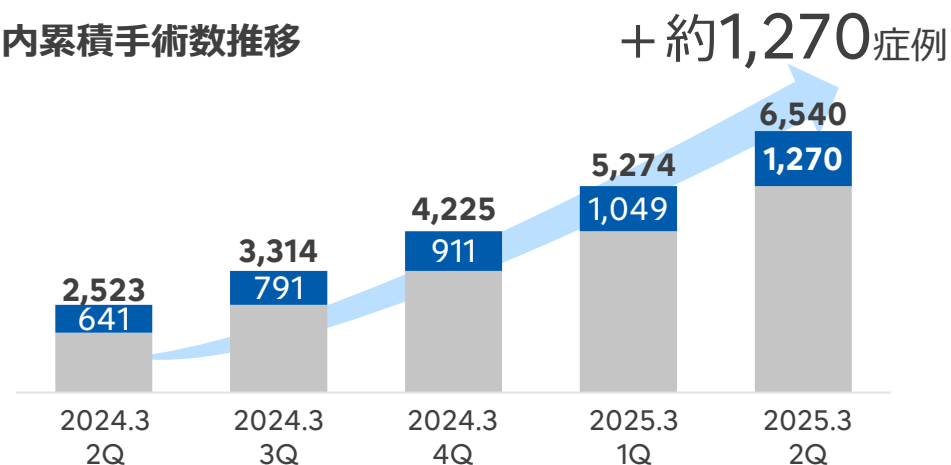
- ✓ 全国の大学病院、基幹病院への導入が着実に進み、系列病院や一般病院への導入地盤を構築



● 海外展開計画

- ✓ 2024年3月期 シンガポールでの認可
- ✓ 2025年3月期 マレーシアで認可取得（2024年8月）
欧州への薬事申請予定
- ✓ 2026年3月期 欧州への市場参入、FDAへの薬事申請
- ✓ 2027年3月期 米州市場への参入開始

国内累積手術数推移



4. 2025年3月期 業績予想

2025年3月期 通期業績予想修正

緑字：期初公表（2024年5月）からの変更箇所

原価率の改善などにより、通期の営業利益は期初公表から+30億円の上方修正

(億円)	2025年3月期 上期 (4月-9月)			2025年3月期 下期 (10月-3月)		2025年3月期 通期 (4月-3月)			
	実績	構成比	対計画 進捗率	修正公表	構成比	修正公表	構成比	対前年	対期初公表
売上高	2,424	100.0%	102.3%	2,676	100.0%	5,100	100.0%	110.5%	±0
売上原価	1,111	45.9%	-	1,249	46.7%	2,360	46.3%	107.8%	△10
販売費及び 一般管理費	723	29.8%	-	786	29.4%	1,509	29.6%	112.9%	△10
研究開発費	152	6.3%	-	188	7.0%	340	6.7%	108.3%	△10
その他営業損益	8	0.3%	-	1	-	9	0.2%	82.9%	±0
営業利益	445	18.4%	120.3%	455	17.0%	900	17.6%	114.9%	+30
投資計画	設備投資 500 億円			減価償却費 400 億円					

● 想定為替レート

	通期 (2024年5月公表)	通期 (2024年11月修正)	下期 (2024年5月から変更なし)
1 USD	147.0円	149.8円	147.0円
1 EUR	158.0円	162.0円	158.0円
1 CNY	20.4円	20.8円	20.4円

● 為替感応度の概算値（年間）

	売上	営業利益
USD	8.0億円	1.4億円
EUR	5.5億円	1.0億円
CNY	57.5億円	42.1億円

予想配当額

● 期初予想から配当額は変更なし、増配

	中間	期末	年間	配当性向
2024年3月期	42円	42円	84円	35.4%
2025年3月期(案) ※2024年4月1日に3分割を実施	15円	15円	30円	34.3%

※2024年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っていますが、2024年3月期については当該株式分割前の実際の配当金の金額を記載しています。

当社は、安定的な高成長を持続させるための積極的な投資と、収益性の向上に伴う株主の皆様に対する利益還元との適正なバランスを確保することを目指しております。株主還元については、継続的な安定配当に留意するとともに、業績に裏付けられた成果の配分を行うという基本方針のもと、連結での配当性向30%を目処に配当を行ってまいります。

従来の『3年計画2年ローリング方式』から『3年固定方式』に変更

変更理由

- ・ 2033年度のありたい姿からバックカスティングした長期経営戦略の実現に向け、中期経営計画に基づき各施策を推進中
- ・ 3年固定とすることで、目標達成状況の明確化および戦略の実効性を高め、株主や投資家の皆様との円滑な対話の実現・責任を明確にする
- ・ 中計最終年度（3年目）となる来期業績目標は、為替などの外部要因および今期の進捗を鑑み、2025年5月決算発表時に詳細な内容を説明予定

(補足資料)

2Q単四半期実績（対前年同期）

全地域で伸長し、売上高、利益とも2桁伸長を達成

	2025年3月期2Q (7月-9月)			2024年3月期2Q (7月-9月)	
	実績	構成比	前年同期比	実績	構成比
売上高	1,305.3	100.0%	111.2%	1,173.4	100.0%
売上原価	592.7	45.4%	104.5%	567.4	48.4%
販売費及び 一般管理費	363.5	27.9%	112.1%	324.4	27.6%
研究開発費	78.8	6.0%	0.0%	78.8	6.7%
その他の営業損益	7.4	0.6%	278.6%	2.6	0.2%
営業利益	277.5	21.3%	135.1%	205.4	17.5%
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	149.7	11.5%	110.4%	135.6	11.6%

(億円)

2025年3月期業績予想（事業・分野別・地域別売上高）

事業・分野別売上高

（億円）

	2025年3月期	伸長率
ヘマトロジー	3,030	+10.2%
FCM検査	50	+50.7%
尿検査	425	+8.9%
血液凝固検査	825	+13.1%
免疫検査	250	+5.7%
生化学検査	35	+3.6%
ライフサイエンス	215	+ 4.8%
その他	210	+ 4.8%
ダイアグノスティクス事業	5,040	+ 10.1%
メディカルロボット事業	60	+ 60.2%
合計	5,100	+10.5%

地域別売上高

（億円）

	2025年3月期	伸長率
日本	670	+7.9%
米州	1,285	+8.2%
EMEA	1,405	+12.1%
中国	1,200	+9.1%
アジア・パシフィック	540	+19.4%

緑字：変更箇所

「シスメックスレポート2024」

「シスメックスサステナビリティデータブック2024」を発行



統合報告書

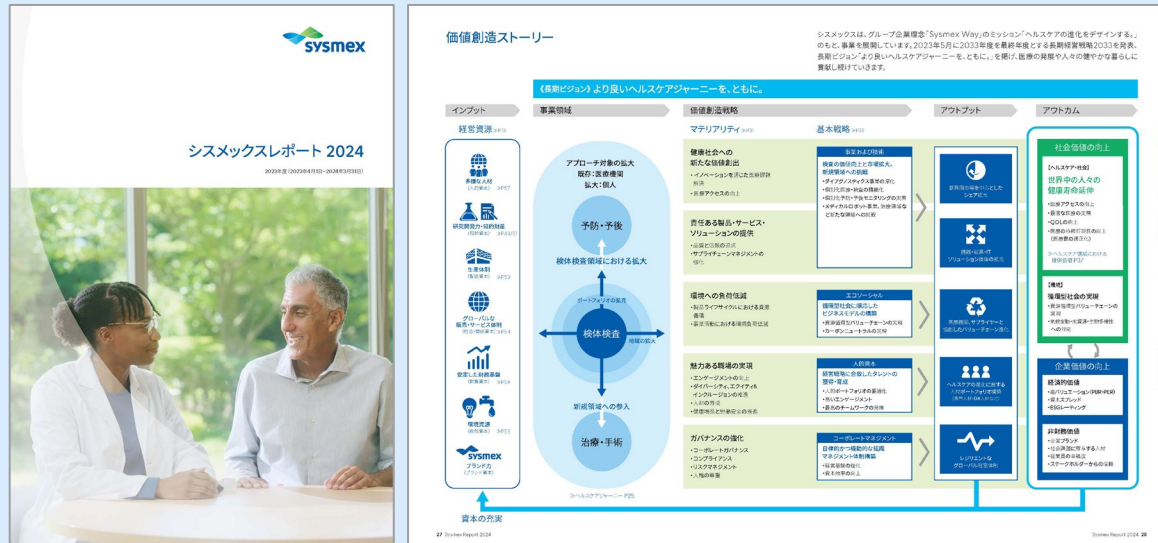
「シスメックスレポート2024」

<https://www.sysmex.co.jp/ir/library/annual-reports/index.html>

年度報告書

「シスメックス サステナビリティデータブック2024」

<https://www.sysmex.co.jp/csr/report/index.html>



シスメックス サステナビリティデータブック 2024		2023年度末 (2023年4月1日 - 2024年3月31日)	2022年度末 (2022年4月1日 - 2023年3月31日)	2021年度末 (2021年4月1日 - 2022年3月31日)	2020年度末 (2020年4月1日 - 2021年3月31日)
システマティック・目標の達成状況		2023年度末	2022年度末	2021年度末	2020年度末
環境	CO2削減率 (Scope 1+2)	100%	100%	100%	100%
	CO2削減率 (Scope 1+2+3)	100%	100%	100%	100%
	CO2削減率 (Scope 1+2+3+4)	100%	100%	100%	100%
	CO2削減率 (Scope 1+2+3+4+5)	100%	100%	100%	100%
社会	従業員満足度	85%	85%	85%	85%
	顧客満足度	85%	85%	85%	85%
	社会貢献度	85%	85%	85%	85%
	環境貢献度	85%	85%	85%	85%
経済	売上高	1,200億円	1,100億円	1,000億円	900億円
	営業利益	150億円	140億円	130億円	120億円
	経常利益	160億円	150億円	140億円	130億円
	純利益	170億円	160億円	150億円	140億円



Together for a better
healthcare journey